大阪労災病院における新たな図書室づくり

Development of New Library at Osaka Rosai Hospital

松井美抄枝*

労働福祉事業団大阪労災病院図書室

Matsui M.: Development of a New Library at Osaka Rosai Hospital. *Igaku Toshokan* 1991 ; 38(3) : 295-300.

This is a report on the development of a new library at Osaka Rosai Hospital. The new library is designed to serve the entire hospital, and is intended to be a local medical information center in the future. By reviewing the history of hospital libraries, we have attempted to ascertain what is required in a new library. Starting with the basic concept of a library, we have modified the management methods, facilities, and services. As a result, unlike a conventional establishment, the new library has begun to play its own intrinsic role in the hospital community.

I. はじめに

当院では、病院の増改築に伴って新しく図書室の設置が計画された。今回完成した図書室は従来の医局附属の図書室から脱却して、病院全体の図書室へ、さらに将来的には最新の地域医療情報センターとなることを目標としている。そして、今まで医局秘書が兼務していた図書室に専任の担当者がおかれることになり、この目的に沿って図書室づくりを行ってきた。病院図書室は、医学医療分野のさまざまな種類の資料を収集し、保存し、利用者に迅速にかつ的確に提供するために設けられている。そのために、どのような図書室が望ましいか、何が必要か、そして、利用者の要求に応えられる図書室とはどのような図書室かを考えながら、図書室づくりを行ってきたので報告する。

II. 大阪労災病院の概要

大阪労災病院は、ベット数762床、17診療科を有する臨床研修指定の総合病院で、各医学会における専門医、認定医の教育指定病院となっている。職員数は医師85名、臨床研修医33名、看護婦451名、Co-medical 111名、事務職その他81名の総計761名である。外来患者数は1日平均1,600人を越え、大和川から和歌山県に及ぶ大阪南部300万人の地域医療の拠点として重責を担ってきた。1984年以来、5カ年計画で病院の増改築工事が進められ時代と社会のニーズに合致した病院、高度技術社会の時代的変遷を踏まえて新たな労災理念の確立を目指す病院が完成した。そして、MRIやシネアンジオ等のさまざまな最新医療機器を導入して、南大阪地区における医療センターとして診断から治療までの医療技術サポートをしている。

III. 大阪労災病院図書室のあゆみ

1962年開院当時は医局内の片隅に本箱が置かれ何の管理もなく図書が並べられていた。その後、

* Misae MATSUI: The Library, Osaka Rosai Hospital. 1179-3, Nagasone-cho, Sakai-city, Osaka 591, Japan.

医局に隣接して部屋が与えられ病院図書室として運営されてきたが、図書室といっても名ばかりで狭いスペースに資料が無秩序に並べられている状態であった。図書予算はあるものの、その蔵書構成は図書の購入要求がほとんど医師より出されるため、アンバランスなものであった。また、図書の中央管理もなされておらず購入図書が各科に散在して利用したい資料が図書室にないこともしばしばであった。

さらに、専任の担当者は配属されておらず、図書室の業務は医局秘書業務の一部として管理、運営されてきた。担当者が常駐していないため紛失図書が非常に多く、貸出し返却が野放し状態で、管理が不十分であったのは言うまでもない。1984年病院の増改築に伴って新しい図書室の設置が計画され完成するまで以上のような状態が続いていた。

IV. 新しい図書室づくりの取り組み

1. 図書室づくりの基本方針

新しい図書室づくりのための基本方針として、医師のみならず病院の全職員が利用できる図書室にすること、さらに地域医療の情報提供機関としての機能を果せるものにすることが決められた。この目的を達成するために図書室に関するさまざまな整備が行われ、設立と今後の計画について5カ年計画が立案された(表1)。以下項目ごとに報告したい。

2. 具体的な取り組み

1) 運営上の整備

図書室に専任の担当者が置かれ、本格的に図書室活動が行えるようになった。それと同時に図書委員会が設置され図書室の管理、運営はこの委員会を通じて円滑に行えるようにした。図書委員会構成メンバーは総計7名。内訳は(表2)のとおりである。図書委員会の主な役割は院内各部門の

表1. 大阪労災病院図書室設立経過と今後の計画役割(案)
(5カ年計画)

第1年度	1988.9-1989.3
(開設期)	医局移転 図書室開設 運営システムづくり(図書委員会の発足)
第2期	1989.4-1990.3
(充実期)	コンピュータ設備、備品購入 利用活動軌道にのる
第3期	1990.4-1991.3
(発展期)	院内-医療情報の処理、医療情報室との関係 院外-開かれた図書室、地域医師会への情報提供
第4期	
(反省期)	1991.4-1992.3
第5期	
(完成期)	1992.4-1993.3

表2. 図書委員会構成

委員長	1名(医師)
補佐	1名(医師)
①医局代表	1名(医師)
②パラ	1名(検査技師)
③看護部	1名(婦長)
④事務局	1名(会計課)
⑤図書室	1名(司書)

代表とのコミュニケーションを密にしながら意見や要望を取り入れ、図書室活動に反映させていくことにある。そのために、図書委員会では現在までに次のようなことを行った。

①図書の選択

②機器の整備や管理方法の決定

③図書室利用規定の作成

また、利用者の要求を十分に満たしていけるように積極的に他の図書館(室)とも交流を深めることや担当者の研修等に関してもその必要性が認められた。現在当院は近畿病院図書室協議会に代会し、幹事病院として活動している。一方、地域医療情報センターとしての役割を果たすべく地域に

開かれた図書室として医師会への情報提供や広報活動が模索されている。

2) 施設、設備の整備

今まで、医局に隣接していた図書室を院内各セクションからの距離に片寄りのないよう独立した位置に置いた。これは、全職員を利用対象とするために考慮したことである。図書室の全面積は、216㎡で閲覧室と書庫に分割されている。閲覧の席数は6席。採光やレイアウト等も考えながら調査、研究、読書に適した環境作りを心がけた。また、応接セットを置き、軽読書やくつろぎの場として気軽に図書室で資料の閲覧ができるようブラウジングコーナーを設けた。図書室の設備として

は情報化時代にふさわしいサービスができるようにまず機器類の整備を行った。新しく設置した機器類は以下のとおりである。

- ①IBMコンピューター、②NECコンピューター、③ファクシミリ、④複写機、⑤IBM電子タイプライター、⑥オリベッティ英文タイプライター、⑦作業テーブル、⑧食器棚、⑨2次資料書架、⑩事務机、⑪カウンター、⑫新着図書書架、⑬手洗い、⑭目録、⑮洋雑誌架、⑯キャレルデスク、⑰ブラウジングコーナー、⑱和雑誌架、⑲新聞架

①複写機 機種は RICOPIY FT 6850

②コンピュータ (2台)

1台は NEC PC-9801RA。全職員が自由に利用できるよう開放しているので、ワープロとしてよく利用されている。もう1台はIBM 5530Z でCD-ROM (MEDLINE)専用として利用している。

③ファクシミリ 機種は NEC NEFAX80

3) 資料の充実と整理

図書を効果的に利用できるように蔵書の分類を始めた。所蔵目録は書名目録、分類目録の2種類で、他に雑誌目録の作成を始めた。分類はNLMC (米国国立医学図書館分類法)を使用し、現在も引続き分類作業が進められている。現在の蔵書数は約13,000冊である。その内訳は(表3)のとおりである。CD-ROMは1991年5月より導入の運びとなり利用件数も増加し、かなりの反響を呼んでいる。

4) 利用サービス

今まで大阪労災病院の図書室は蔵書の管理も不十分で利用サービスはほとんどなされていなかった。しかし、利用者に図書室を活用してもらうためには利用サービスはなくてはならないものである。そこで、この機会に次のようなサービスを開始した。

表3. 蔵書構成 (1989.4.1-1990.3.31)

①単行本	
和書	427冊
洋書	101冊
単行書年間受入冊数	528冊
製本	
和書	65冊
洋書	412冊
製本年間受入冊数	477冊
②雑誌	
和雑誌	50タイトル
洋雑誌	148タイトル
雑誌年間受入	198タイトル

①貸出、閲覧

貸出は医師に限らず全職員を対象にし、その結果院内のさまざまな職種の人の利用が増えている。貸出手続きは、ブックカード方式である。また、時間外でも利用できるように貸出帳を作り、担当者が不在の場合でも貸出が可能になった。

図書の閲覧については、新着図書コーナーを設けて新規受入図書がすぐに利用できるよう工夫した。

②文献検索

以前は、オンライン文献検索を行っていたが、最近CD-ROMによる文献検索に移行した。これは、使用料金の問題や時間に制限されないで利用者自身が文献を検索でき、また必要文献を的確に判断できる等の理由によるものである。

③相互貸借

近畿病院図書室協議会のネットワークを通じて相互協力を行っている。その他、全国の大学医学図書館に依頼し、利用者の要求に応じている。

④複写サービス

当図書室では各自がセルフサービスで複写を行っているが、業務の都合上文献の複写ができない場合は図書室担当者が複写サービスを行っている。

⑤ファクシミリサービス

主に医師からの患者の診断、治療のため緊急を要する文献依頼が多いのでファクシミリを相互貸借に利用している。

⑥クイックレファレンスおよび事項調査

利用者の質問に対して上記のサービスを行っているが、質問内容によっては文献調査のように利用指導を行う場合もある。

⑦オリエンテーション

春に実施されている新人ナース対象のオリエンテーションに図書室の利用指導を行っている。このことによってナースの図書室利用が活発になり貸出件数も増加している。

以上が利用サービスの内容である。貸出、相互

表4. 利用サービス (1989.4-1990.3)

①貸出	
貸出冊数	
単行書	532冊
雑誌	22冊
年間貸出冊数	554冊
②相互貸借	
文献依頼	22件
文献受付	130件
③レファレンスサービス	
文献検索	
マニュアル検索	10件
オンライン検索	17件
事項調査	3件

貸借、レファレンスサービスの利用件数は(表4)のとおりである。

V. 2カ年の活動評価と今後の課題

増改築計画の一環として、新しく図書室が完成し、以来2カ年が経過した。そして、現在まで試行錯誤を繰り返しながらも図書室活動を行ってきたが、この間の活動を評価してみると以下になる。

蔵書については、総合病院として最低そろえるべき資料はもちろん、限られた予算とスペースのなかで利用者の要求を最大限に満たせるよう考えている。その結果、医学関連分野の情報が目まぐるしく変化する今日、自分が必要とする情報をいかに的確に選択しそれを活用するかが課題であるが、CD-ROM (MEDLINE)の登場は当院でもますますその利用が多くなるであろうと考えられる。

一方、図書委員会のはたらきかけにより、院内での図書室の位置づけも徐々に確立されてきた。施設、設備の充実により、図書室が院内の情報センターとしての役割を果たすようになり、本来の図書室業務である幅広い利用者サービスが行えるよ

うになった。この中で特にファクシミリサービスは迅速な情報入手が必要な医療機関の性質上相互貸借に今後おおいに活用されると思われる。

しかし、このように図書室活動が活発になる一方まだまだ課題も多い。一般的に病院図書室担当者は業務内容が雑多であるにもかかわらず人力的に恵まれないことが多いが、当院においても利用サービスの件数が多くなれば、一人の担当者で利用者の要求を充足していけるかどうか難しい面がある。

また、各科、各部署に分散している購入図書への扱いをどうするか、これからますます増え続けるであろう図書室の資料保管スペースの問題など今後解決してゆかなければならないと考えている。

VI. おわりに

新しく病院で図書室づくりを行う場合の一例として大阪労災病院の事例を報告した。

医学とその関連分野の学問の発達が目まぐるしくそれに携わるものは常に新しい情報や知識を吸収していかなければならない。病院の臨床活動や研究活動においても同様で、そのため病院図書室でも従来にも増して情報提供の重要性が高まっている。

大阪労災病院図書室はその第一歩を踏み出したばかりで、利用者の要求にはまだ十分対応できる状態ではないが、利用者が何を求めているのか十分理解し、その要求を最大限に満たせるよう努力していきたい。そのためには、他館との相互協力活動をより積極的に進めると共に、病院図書室をめぐる種々の障害の解決を図っていききたいと考えている。そして、ライブラリアンとしての資質と技術を磨きながら病院図書室担当者としての役割を十分果たしたいと願っている。

本稿をまとめるにあたり貴重な助言, 指導をいただきました大阪労災病院図書室長, 田中道夫先生, 星ヶ丘厚生年金病院図書室, 首藤佳子氏に深謝いたします。

本報告は第7回図書館情報サービス研究大会(1990年6月: 浜松)での発表を, 更に詳細に展開したものである。

参考文献

- 1) 上原美幸 全職員が利用できる図書室をめざして. 病院図書室 1981; 2: 13-4.
- 2) 奈良岡功, 後藤久夫 病院図書室のSet up. 病院 1989; 48(3): 270-1.
- 3) 岡橋郁子 運営と管理. 病院図書室 1988; 9: 9-14.
- 4) 近畿病院図書室協議会編 病院図書室マニュアル「医学資料の整理と利用」京都, トシマ参考図書, 1984.
- 5) 岩本速雄 図書室づくりの視点. 病院図書室 1981; 2: 3-5.